

Ⅰ 各学部の重点目標と取組の評価 ※数字は学校重点目標との関連

幼小部 (幼)	○安心してできる環境の中で、周囲の人や環境と自ら関わろうとする力を育む。	
	〔具体策〕	評価
	・教師が気持ちを受け止め、応えることで人と関わる楽しさや遊びの充実感を味わえるようにする。①③	A
	・興味や関心に応じた遊びの種類を増やし、環境を整えて十分に遊びを楽しめるようにする。①③	B
幼小部 (小)	○触察や体験活動を取り入れ、学習や生活の基盤となる基礎的能力を育成する。	
	〔具体策〕	評価
	(通常の学級) ・児童の見え方による学習の困難さへの配慮を含めた指導内容や指導方法について、教員間で連携を図り、効果的に教科学習が進められるようにする。①②	B
	(重複障害学級) ・学年や発達段階に応じた学習内容を精選し、特別活動や生活単元学習を中心に、触れたり体験したりする活動に、十分に時間をかけて取り組めるようにする。①②	B
	○実体験や集団での活動を通して、自己有用感を育成する。	
	〔具体策〕	評価
	(通常の学級) ・総合的な学習の時間、学級活動、行事等で、児童が主体的に行動し、達成感を得られるような活動を設定し、実践する。①②	A
	(重複障害学級) ・学級活動や日常生活の指導を中心に、係活動などに取り組めるようにし、自分の役割を果たす機会を設ける。①②	A
中学部	○家庭・学校・地域での自分の役割が分かり自ら行動しようとする技能・態度を育成する。	
	〔具体策〕	評価
	(共通) ・学校生活や授業、行事の事前、事後学習を通して、自分ができることや役割、協力について考える機会をもち、家庭、学校、地域において自ら取り組もうとする意欲を高められるような指導を実践する。②⑤	B
	(通常の学級) ・他学級や他学部の児童生徒との活動や交流及び共同学習、行事等で地域の人と関わる機会を多く設け、より適切な関わり方を自ら考えることができるよう支援する。②⑤	B
	(重複障害学級) ・他学級・他学部の児童生徒との活動や交流及び共同学習、行事等で地域の人と関わることで、適切に人との関わる経験を積み、有意義な時間を過ごしているという実感を得られるよう支援する。①②	B

中 学 部	○基礎的・基本的な知識・技能の定着と主体的な学習態度を育成する。	
	〔具体策〕	評価
	(共通) ・「キャリア教育発達段階表」を活用し、授業をはじめとして学習活動全般にキャリア教育の視点を取り入れて実践する。①②	B
	(通常の学級) ・個に合った学習方法を取り入れ、学習状況を評価することで、意欲的に課題に取り組めるよう支援する。①④	A
	(重複障害学級) ・日常生活の中の課題の克服に意欲的に取り組めるよう学習内容を工夫するとともに、必要な知識やスキルの向上を図る。①④	A
高 等 部	○社会参加・自立に向け、よりよい人間関係を築く能力を育成する。	
	〔具体策〕	評価
	(通常の学級) ・相手を気遣う表現、言葉かけ、それを使用する場面について具体的に指導する。また、実際に使う場面で使用を促す。①② ・行事等で、自分の役割や立場を意識して話をしたり行動したりするように促す。①② ・時と場面に応じた適切な言葉遣いや振舞いを適宜指導する。②	B
	(重複障害学級) ・日常生活の指導、自立活動を通して、自分の興味関心のあること、体調や気持ち等を友達や教員、実習先の職員に伝えることができるような指導をする。①② ・自分でできることは、自分でしっかりと行うとともに、自分の思いや考え、サポート依頼については、言葉やサイン等でより具体的に相手に伝えることができるよう指導する。②	B
	○卒業後の社会生活を見据えた学習態度を育成する。	
	〔具体策〕	評価
	(通常の学級) ・各教科等の指導において苦手なところを確認し、それを克服する方法を生徒と一緒に考え、実行する。① ・自分でできる方法を見付けたり環境を調整したりするよう支援し、生活の中でできることを増やす。①②	B
	(重複障害学級) ・自立活動、日常生活の指導、生活単元学習などの授業において、協力する場面を設定した内容の授業を計画し、支援・指導を行う。①② ・活動後に自己理解を深められるよう振り返りの時間を設定し、活動への取り組み方等について教員と一緒に考え、できることを増やそうとする前向きな気持ちの育成を図る。①②	B
	○国家試験合格に向けた基礎的・基本的な知識の定着と、施術者として必要な実践的な技術の習得及びコミュニケーション能力の育成を図る。	
	〔具体策〕	評価
	(高等部保健理療科・専攻科) ※「理療指導部」と同様	